RADAR DETECTOR AND
ADVANCED WARNING SYSTEM
FOR MOTORCYCLE

VZ-500

カーロケ付オートバイ専用レーダー探知機

取扱説明書

TANAX

1217040

適　合	バッテリー12V車　全車種に取付可能

この度はVZ-500をお買い上げ頂きありがとうございます。
本取扱説明書におきましては、安全にお使いいただくため、下記のように表示を定めております。
内容をよく理解されてから製品をご利用ください。また、この取扱説明書は常にお手元に保管くださいますようお願い申し上げます。

⚠注意　この表示の内容を守らないと、ケガや車両に損害を与える事があります。

目　次

1.仕様

センサーボックス

電源	DC12V
周波数	10,525GHZ　Xバンド
作動温度範囲	−20℃〜+80℃
消費電流	ON=2mA 警告時=最大60mA OFF=0.75mA(バッテリー直接配線時)
ヒューズ	2A
センサーボックス大きさ	幅48×奥行60×高さ20mm
ワーニングボックス大きさ	幅46×奥行35×高さ14mm
警告方式	3色による光の警告 レシーバーによる音の警告

レシーバー

電池	CR2032
消費電流	1mA
連続使用時間	約200時間(未警報の場合)
レシーバーの大きさ	φ50×高さ12mm
使用範囲	センサーボックスより1m程度
受信電波帯	カーロケ帯/取締り無線帯

注)仕様につきましては、改善の為予告なく変更する事がございます。

2.特長

超小型・セパレートタイプのオートバイ専用設計!

●センサー部が小さく、取り付けが容易です。(専用ステー2種類付属)
●カラフルな緑ーオレンジー赤と3色の高輝度L.E.D.を採用し、レーダーまでの距離を3段階で警告します。
●電源インジケーターランプ(青)が付いていて、電源のON/OFFを確認できます。
●高輝度L.E.D.採用のワーニング部はメーター周りに取り付けられ、視認性が良好です。
●コードの途中にコネクターが付いており、メンテナンス性が向上しています。
●走行中でも警告音が確認できる専用レシーバー付きです。
●温度による作動範囲が−20℃〜+80℃と幅広く、レーダー本体、ワーニングボックスともに防雨型の設計となっています。

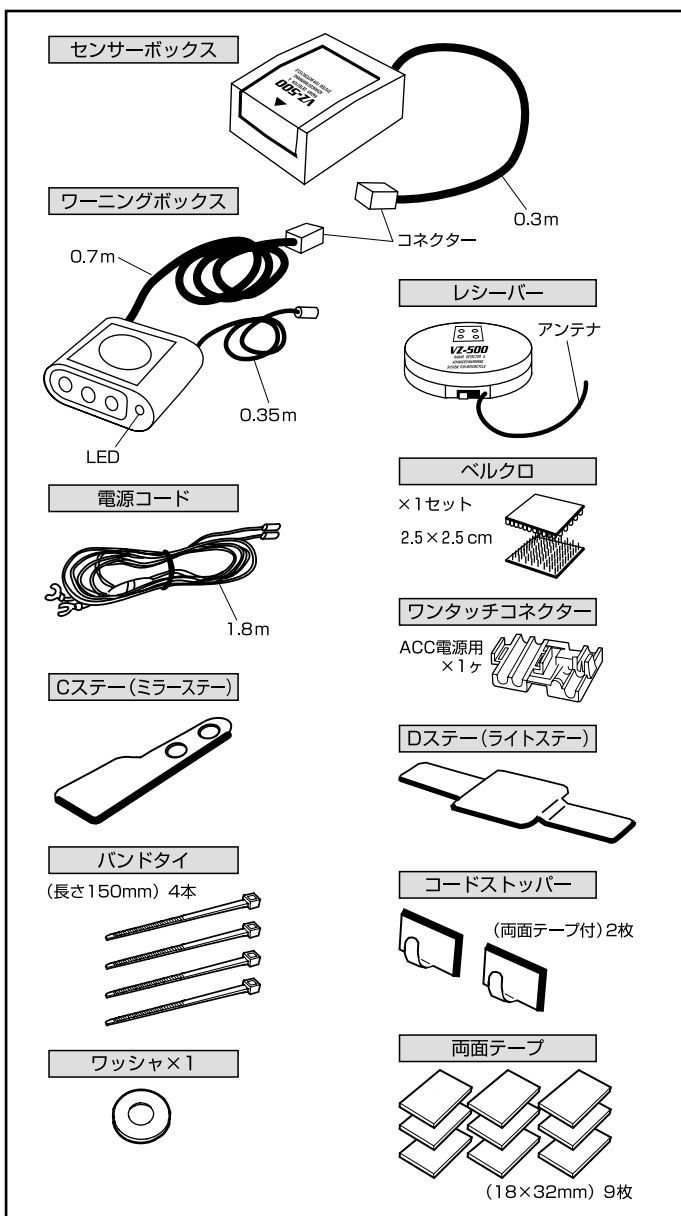
ワンタッチでON/OFFが可能です!

●配線は⊕と⊖に継ぐだけの簡単取り付け。ワーニングボックス上面のON/OFFスイッチでワンタッチ操作が可能です。
●オートミュートコントロール(A.M.C.)で、感知後10秒間は通常警告を行い、その後自動的に警告の音をセーブしますので、自動ドア等の干渉もわずらわしくありません。

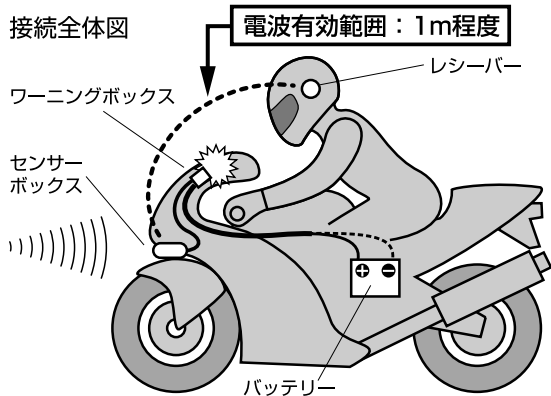
ステルス取締機及び新Hシステムにも反応!

●超高感度タイプで、Xバンドに対応します。
●従来のオービスはもちろんの事、ステルス機、新Hシステムにも反応します。
(注:ステルス機は電波が発射されている場合にのみ有効です)
●相互干渉防止回路内蔵で、他のレーダー探知機から漏れる電波による誤報を発しません。
●近づくに従って光の間隔が早くなり、接近を知らせます。

対象	対応
オービス(水平偏波)	◎
オービス(垂直偏波)	◎
新Hシステム	○
ステルス	○(発射電波にのみ対応)
移動式(水平偏波)	◎
移動式(垂直偏波)	◎
移動式(円偏波)	◎
パトカーによる追跡レーダー計測	○
パトカーや白バイによる追尾計測	× 電波を使用していないため検出不可
光電管を使用する方法	× 電波を使用していないため検出不可
ループコイル式	× 電波を使用していないため検出不可
LHシステム	× 電波を使用していないため検出不可

3.部品構成と各部の名称

4.取付方法

1 配線方法

1）バッテリーへの直接配線

電源コードの端子をバッテリーの端子に接続します。
余分な線は付属のバンドタイを使って、フレーム等に固定してください。

2）車両の従来コードへの途中結線

①車両の配線からイグニッションがONの時に ⊕ の電気が流れている配線を探してください。
※⊕ 線が分からない時は、プッシュピンなどを刺して導通させて確認して下さい。

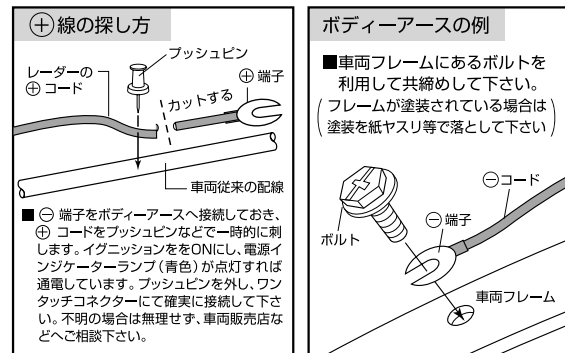
②センサーボックスから出ている電源コードの ⊕ ライン端子を切り落とし、上記配線に付属のワンタッチコネクターにて確実に接続して下さい。

③電源コードの ⊖ ラインはボディーアースして下さい。

■ ⊖ 端子をボディーアースへ接続しておき、⊕ コードをプッシュピンなどで一時的に刺します。イグニッションををONにし、電源インジケーターランプ（青色）が点灯すれば通電しています。プッシュピンを外し、ワンタッチコネクターにて確実に接続して下さい。不明の場合は無理せず、車両販売店などへご相談下さい。

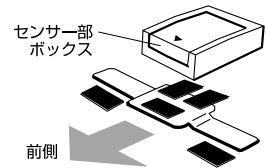
ボディーアースの例

■車両フレームにあるボルトを利用して共締めして下さい。
（フレームが塗装されている場合は塗装を紙ヤスリ等で落として下さい）

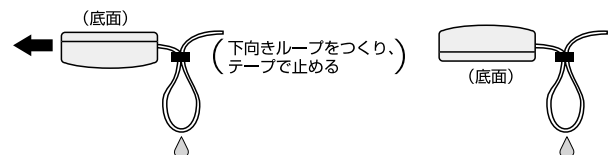
⊖コード
⊖端子
ボルト
車両フレーム

2 センサーボックスの取り付け

付属のステーを利用して、色々な所に取り付けられます。
また、ステーを利用しないでセンサーボックスを両面テープで直接車体に取り付けることもできます。

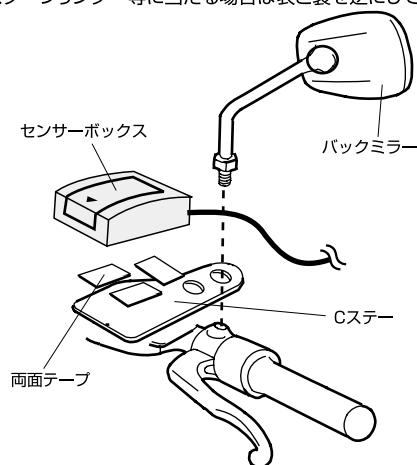
⚠ 取り付け上の注意

1. テープは、接着後24時間で接着力が最大となりますので、それまで荷重をかけないようにしてください。
2. センサーボックスはいずれの取り付けの場合も水平または背面に取り付け、前方に障害物がないようにしてください。
（プラスチック製のカウル等、電波を通すものはOK、金属物はNG）
3. 取り付けの際は、必ずセンサー部が進行方向となるように注意してください。
（矢印の方向）

⚠ 配線取回し上の注意

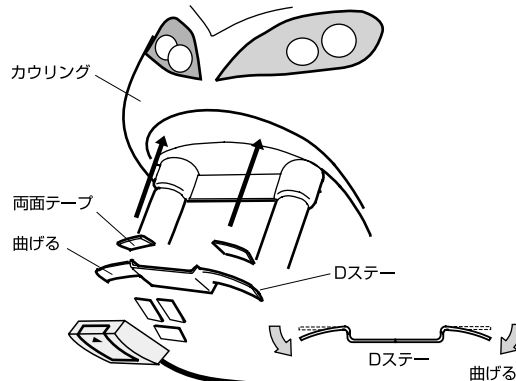
センサーボックスから出ている電源コードは、ハンドルを切った時、引っ張られないように取回しをする事。
断線や水洩れの原因となります。

参考 浸水防止及びコードの断線防止のため、センサーボックス手前でコードをたるませる事をおすすめします。

主な取り付け例と取り付け方法

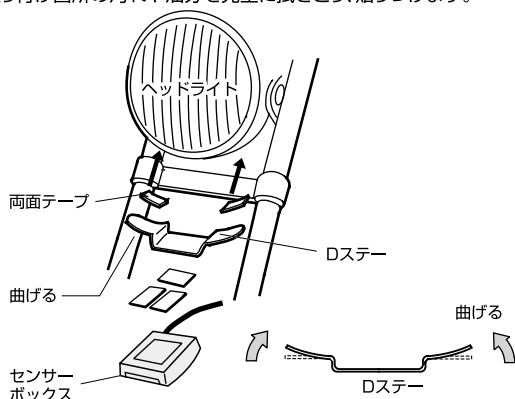
ミラー部への取り付け

1.Cステーにセンサーボックスを両面テープで取り付けます。
2.バックミラーをはずし、Cステーをはさみ込んでバックミラーを取り付けます。
※左右どちらのミラーでも取り付け出来ます。
※マスターシリンダー等に当たる場合は表と裏を逆にしてご使用ください。

⚠注意	ハンドルの振動が激しいものには適しません。

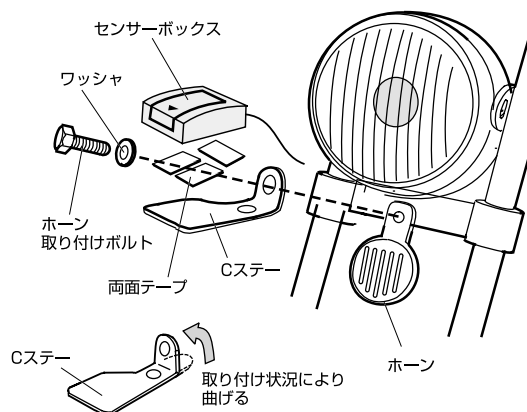
カウリング部への取り付け

（センサーボックスが裏側になりますが、性能に影響はありません）
1.カウリングのライト下側の凹丸みに合わせて、Dステーを曲げます。
2.ステーに両面テープを貼ります。
3.センサーボックスをステーに両面テープで取り付けます。
4.取り付け箇所の汚れや油分を完全に拭きとり、貼りつけます。

⚠注意	ステーに付いているコーティングフィルムは必ずはがしてお使いください。 ハンドルの取り回し、フロントフェンダー等に干渉しないかご確認ください。

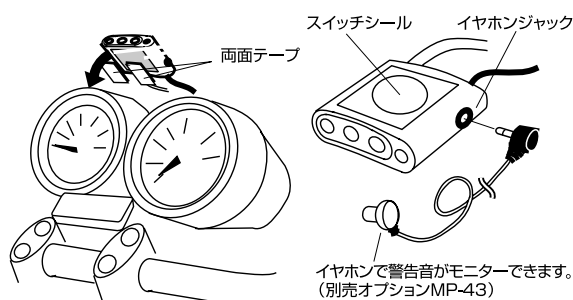
ライトボディーへの取り付け

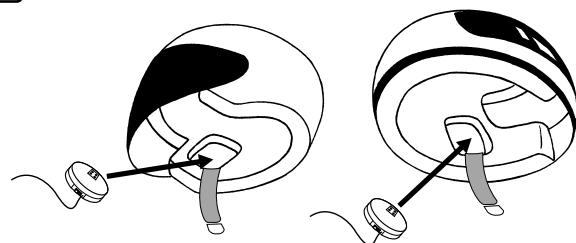
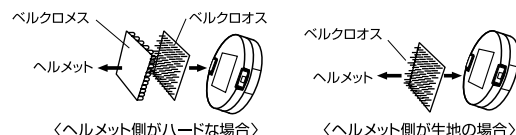
（センサーボックスが裏側になりますが、性能に影響はありません）
1.ヘッドライトのリムの丸みに合わせて、Dステーを曲げます。
2.ステーに両面テープを貼り付けます。
3.センサーボックスとDステーを両面テープで取り付けます。
4.取り付け箇所の汚れや油分を完全に拭きとり、貼りつけます。

⚠注意	ステーに付いているコーティングフィルムは必ずはがしてお使いください。

車体ボルト利用の取り付け（ホーンボルト利用の場合）

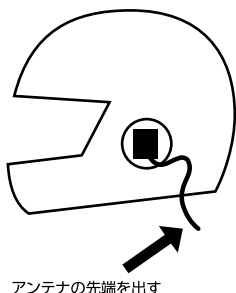
1.Cステーを取り付け位置に合わせ曲げておきます。
2.センサーボックスをステーに両面テープで取り付けます。
3.ホーンを取り付けているボルトを外してステーを挟み込みます。
（ボルトが6mm径の場合、ワッシャを使用してください）

⚠注意	ハンドルの取り回し、フロントフェンダー等に干渉しないかご確認ください。

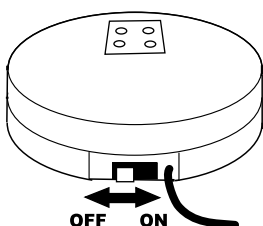
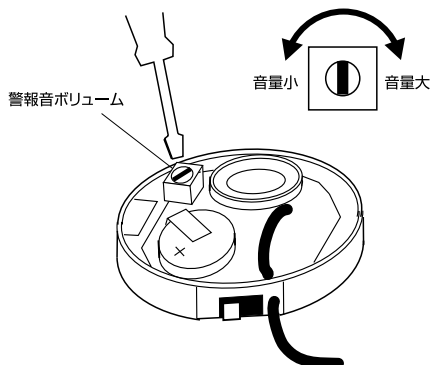
3 ワーニングボックスの取り付け

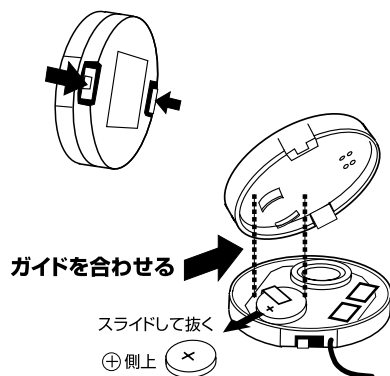
1.ライディングポジションをとり、見やすい角度に付属の両面テープ でメーターケースなどに貼り付けます。
2.センサーボックスと接続します。
3.２本のコードを束ねるときは、付属のコードストッパーをお使いください。
※平面に取り付けるときは何枚か両面テープを重ね貼りしてください。
※スイッチシールに付いているコーティングフィルムは、はがしてお使いください。

⚠注意	1.張り付け箇所の汚れや油分はよく拭きとってください 。 2.ワーニングボックスのL.E.D.は、取り付け角度によって見えにくくなる事がありますので、角度をよく確認してから取り付けてください。

4 レシーバーの取り付けと使用方法

1.取り付けるヘルメットの耳抜きの部分にレシーバーがうまく収まるかを確認します。（アンテナはまるめないようにしてください）
2.取付面の状況によりベルクロテープを利用して貼り付けます。

3.ヘルメットを装着して、支障のない事を確認します。耳などに当たる場合は位置を少し移動して下さい。
※レシーバーの代りにイヤホーン（オプション）も使用できます。

レシーバーの受信感度について

センサー本体の取り付け場所やレシーバーの取り付け方によっては、受信感度が安定しない場合があります。
その際は、ヘルメットからレシーバーのアンテナの先端を少し外に出すようにしてください。

レシーバーの使用方法

1.スイッチをONにします。（ピッと音がします）

2.音量は内部のボリュームで調整します。

レシーバーの電池交換

電池交換の目安　：レシーバーがONの状態で本体側のスイッチをONにした場合に反応しなくなったとき。
交　換　電　池　：CR2032

1.両脇のつまみを手でつまんで、上ケースを取り外します。
2.電池のみをスライドして取り出し、新しい電池と交換します。
（⊕と⊖を間違えないようにして下さい）

5 使用方法

1）ON - OFFについて

1.ワーニングボックス部の電源スイッチをONにしてください。
2.通電確認のため、スイッチON時にワーニング機能が20秒作動します。

⚠ 注意	1.センサーボックスとワーニングボックスは防雨型となっておりますが、洗車時等、直接水をかけることはお避けください。 2.同一周波数（10.525GHz）のものにも反応しますので、あらかじめご了承ください。 7 反応する電波例 参照。 3.本体をバッテリーまたは車両の従来コード（電源ON時）につないだままのバッテリー充電や押し掛けは、電子部品の破損につながりますのでお止めください。

2）警報機能について

① レーダー

本機は、Wアラーム方式と接近テンポアップシステムの採用により、取締りレーダー波の存在をより確実にお伝えします。

Wアラーム方式

音（ブザー）と光（ワーニングランプ）のダブルで警告します。

常時リサーチシステム

本機は、各電波（取締りレーダー波、カーロケ帯、取締り無線）を常時モニタリングし、強い警報から受信します。

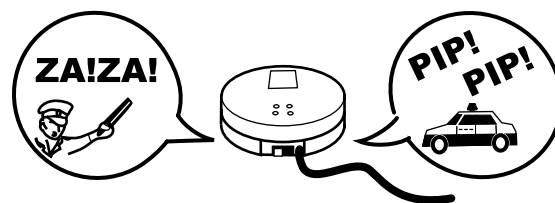
接近テンポアップシステム

各警報は、取締りレーダー波発信源への接近（電波の強弱）に合わせて変化します。

取締りレーダー波発信源との距離	遠い → 近い
レシーバー	断続音から連続音に変化します。
ワーニングランプ	緑　オレンジ　赤 左から右へ点灯数が増し、右端に達した後に、全てが点滅します。

② カーロケ帯及び取締り無線帯

■取締り無線帯（350.1MHz）の電波を受信すると………

■カーロケ帯（407.7MHz）の電波を受信すると…………

カーロケ帯発信源との距離	
レシーバー	断続音から連続音に変化します。

●350.1MHz取締り無線がデジタル方式の場合や407.7MHz帯の送信音は、音声ではありませんので受信しても内容は分かりません。

●350.1MHz取締り無線の交信は数秒間で終わることが多いため、交信内容を完全に聞き取れない場合もあります。

6 スピード違反の取締り方法

1）追走して測定する方法（追尾方式）

指針を固定できるスピードメーターを搭載している白バイやパトカーで、対象の車を追走して速度を測ります。

※またカーロケーターシステムを搭載した移動局の場合は、カーロケ帯受信機能で事前に察知することにより、緊急車両の進行の妨げにならないようにするなど、安全走行に役立ちます。

2）距離と時間で算出する方法（光電管式、ループコイル式／LHシステム）

一定区間を通過するのにかかる時間から速度を算出します。測定区間の始めと終わりに設置するセンサーには、赤外線や埋め込みの磁気スイッチなどが使われています。

※この方式は取締りレーダー波を発射しておりませんので、本機では探知することが出来ません。

3）電波を使って算出する方法（レーダー方式）

電波を対象の車に向けて発射し、その反射波の周波数変化（ドップラー効果）で速度を算出します。

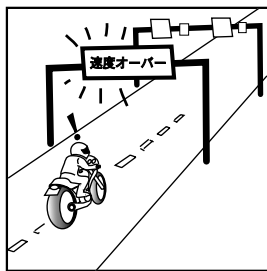
※ 現在、スピード違反の取締りには、この方法が多く採用されています。
この方法は、歴史も古く、種類、台数が多いことから、今後も取締りの主流になると思われます。

●レーダー方式の種類と情報

（イ）ステルス型取締り機について

ステルス型取締り機は他の取締り機と同じ電波を使用していますが、事前に探知（受信）されないようにするため、待機中は電波を発射せず、必要なときに短期間強い電波を発射して、速度の測定ができる狙い撃ちの取締り機です。㊟自車が先頭の場合は予測不可能です。前方車に対して電波を発射している時のみ警告が可能です。

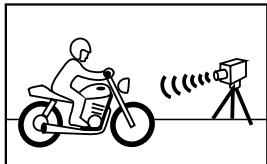
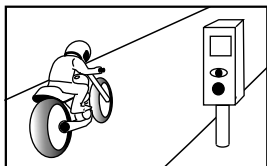
（ロ）新Hシステムについて

電波を用いる自動速度取締り機（オービス）の一種ですが、他のオービスとは種類の異なる電波（周波数は同一）を使用しているため、探知（受信）しにくくなります。ただし、このシステムでは証拠の記録をする前に、電光掲示板で「速度オーバー」や「速度超過」などの警告がありますので、これらの警告を見かけたら注意してください。

（ハ）Nシステム検知について

「自動車ナンバー自動読みとり装置」通称「Nシステム」は、新Hシステムなどに似ていますが、レーダー波を使用した取締り機ではないため、このNシステムが発している特殊な信号を検知しません。そのため、「新型の取締り機ではないか?」といった疑問や不安を持ちながら運転していた人も多かったようですが心配はいりません。

（ニ）取締りレーダー波について

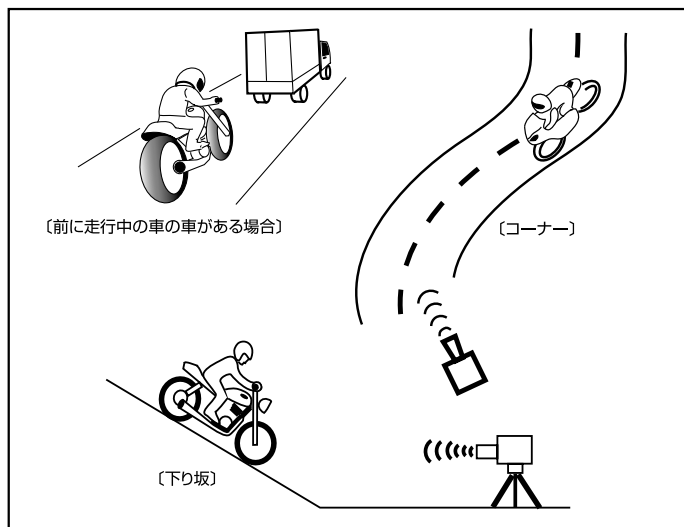
取締りレーダー波は、発射するときの角度や装置の種類によって性質が異なります。

〈定置式〉
取締り警察官が測定装置を道路際に設置して行います。
取締りレーダー波は、直進性が強いため、発射角度が浅いほど、感知しやすくなります。

自動速度取締り機（オービス）
速度の測定と証拠写真の撮影を自動的に行います。

〈移動式〉
測定器をパトカーに搭載して、移動しながら測定を行います。

（ホ）取締りレーダー波を受信しにくい場合

電波の発射方法や周囲の環境、条件などにより、電波を受信しにくいことがあります。

●前を走行している車（特に大型車）がある場合や、コーナー、坂道では、電波が遮断され、探知距離が短くなる場合があります。スピードの出やすい下り坂では、特にご注意ください。

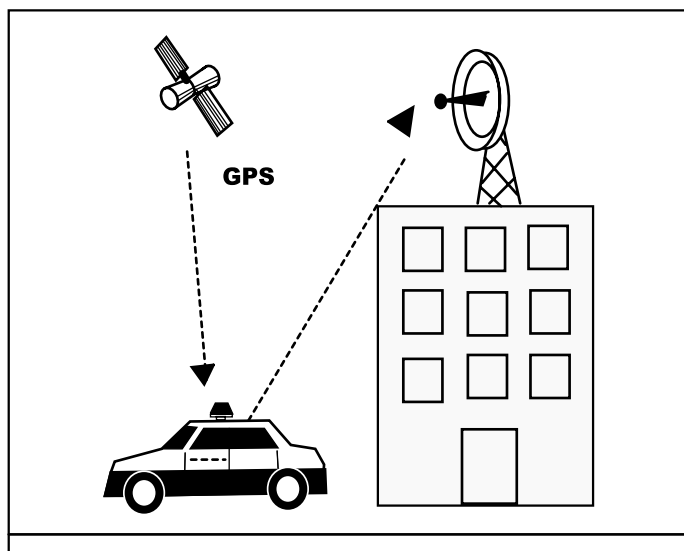
●対象の車が近くに来るまで、電波を発射しない狙い撃ち的な取締りが出来るステルス型のスピード測定装置があります。

7 カーロケ帯＆取締り無線

1）350.1MHz取締り無線受信機能について

スピード違反の取締りや、シートベルト着用義務違反の取締り現場では、350.1MHzの電波を用いたアナログ方式の無線で連絡が行われることがあります。350.1MHz取締り無線受信機能は、このような場面で威力を発揮します。

取締り現場での連絡方法には350.1MHzの電波を用いたアナログ方式の無線の他に、通話内容をコード化したデジタル方式や優先方式もあり、受信しても内容が分からなかったり、受信自体が出来ない場合もあります。

2）407.7MHzカーロケ帯受信機能について

カーロケーターシステムとは、「無線自動車動態表示システム」のことで、通信司令本部が移動局（パトカー等）の現在位置をリアルタイムで地図画面に表示し、把握するシステムです。
カーロケーターシステムを搭載した移動局は、GPSによる緯度・経度情報をデジタル化し、407.7MHz帯の周波数で通信する場合がありますので、その電波受信により、移動局が近くにいる可能性が高いことが予測されます。このように、事前に察知することにより、緊急車両の進行の妨げにならないようにするなど、安全走行に役立ちます。

●一部地域の移動局または移動局によっては、カーロケーターシステムが搭載されていない場合があったり、常に電波を出していない状態がありますので、移動局が近くにいても受信できない場合があります。
●受信のタイミングによっては、実際の移動局の接近と受信のお知らせがズレる場合があります。

日頃から安全運転を心がけてください。

このレーダー探知機は、取締りレーダー波の存在を前もって警告する受信機です。レーダー方式以外の赤外線や光電管式、ループコイル式などのスピード測定装置には反応しません。また電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車両通過計測器などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。いつも鳴っているから大丈夫と安心せずに、注意して運転をしてください。

※探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがございますのでご了承ください。

本機と,取締りの方法や種類をよく理解して、上手にご使用ください。制限速度を守り、安全運転を心掛けることが大切です。

●電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車両通過計測器などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。いつも鳴っているから大丈夫と安心せずに、注意して運転をしてください。

反応する電波例

- ●マイクロ波のドップラー式自動ドア（コンビニのドアなど）
- ●マイクロ波のドップラー式車両通過計測機
- ●NTTのマイクロウェーブ通信回路の一部
- ●気象用レーダーの一部　●航空レーダーの一部
- ●湾岸レーダーの一部　●大出力の違法CB無線　等

8 補修パーツの紹介

	部品番号	名　　称	価　　格	数　量
1	MP-43	イヤホーン	¥　472（本体価格¥450）	1本
2	MP-47	バンドタイ	¥　73（本体価格¥70）	4本
3	MP-145	Cステー	¥　189（本体価格¥180）	1ヶ
4	MP-146	Dステー	¥　189（本体価格¥180）	1ヶ
5	MP-148	ワーニングボックス	¥5,040（本体価格¥4,800）	1ヶ
6	MP-149	取付付属品セット	¥　315（本体価格¥300）	1セット*
7				

＊両面テープ×9、コードストッパー×2

●お求めはお近くのモトフィズ取り扱い店にお申し出ください。
また、通信販売でもお求めになれます。

9 本品に対するご連絡・ご相談先

TANAX タナックス株式会社
TEL.04-7150-2450（月～金　9：00～18：00）
〒270-0151　千葉県流山市後平井107-3
http://www.tanax.co.jp

10 保証について（化粧箱横面表示）

保証書、又はレシートは保証を受ける際に必要となりますので、必ずお手元に保管されるようにお願い申し上げます。 いずれかの提示が無い場合は保証が受けられません。
（保証書を使用する場合は切りはなしてご使用下さい。）